

旅立ち、出会い、希望

<2020年度の聖句>

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなただけを満ちし、聖霊の力によって希望に満ち溢れさせてくださるように。
(ローマの信徒への手紙15章13節)

不思議な春。いろいろなものが小さく小さくなっています。
つくし卒園式も、3月14日、とても小さく行いました。
雨の園庭が見えるほど、礼拝堂の窓を広く開け放ち
エアコンの暖気を逃がしながら換気扇を回し
母や父が座る椅子の広い間を、晩冬の風が吹き抜ける。
鐘の音。前奏と共に卒園児11人がやや緊張し入場。
その日いなかった在園児の分まで元気に胸を張り
『つくしのように』『ありがとう』の2曲を歌う。
聖書、そして祈り。自然に胸で手を合わせ、目を閉じる。
なんて素直な神さまへの姿勢！

卒園証書を授与されたらそのまま母や父に預かってもらう流れ。
式のクライマックスで目の前に来てくれたわが子を
「おめでとう！」と感激して抱きしめ、見つめ合う。
なんて素敵な笑顔と笑顔！

壇上で、受け取った証書の真ん中に指で折り目を入れる子がいた。
大事な証書なのにと一瞬戸惑う園長。でも次の瞬間、思いあたった。
証書が大きくて、予行で何度も片手で挟むも、すぐに弾力で開いてしまった。
自分だけ、かっこよく片手でもってお辞儀ができない…。
でも、最後の最後、ひらめいた。「こうすれば片手で持てる」。
迷わず入れた折り目。堂々とお辞儀をした満足の笑顔。
大人になって卒園証書を見返すたびに、きっと思い出す。
その折り目から聞こえてくる神様からのメッセージ。
「そう、それでいい。そのように自分らしく生きていいんだよ」。

愛されて成長し、自分らしく自信をもって歩みだした子どもたち。
君たち一人ひとりに神様の喜びと希望が満ち溢れますように。

(つくし保育園園長 つだかずお)